

令和元年6月17日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(B) (特設分野研究)

研究期間：2014～2018

課題番号：26310105

研究課題名(和文) ケアの現場と人文学研究との協働による新たな 老年学 の構築

研究課題名(英文) Establishment of neo-gerontology with collaboration humanities research and practical care settings

研究代表者

本村 昌文 (MOTOMURA, Masafumi)

岡山大学・ヘルスシステム統合科学研究科・教授

研究者番号：80322973

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の主な成果は、近代日本における「老年学」の草創期(明治末～大正期)では、人文学の研究が「老年学」の全体構想の中に位置づけられており、さまざまな分野を総合するという意識があったこと、過去から現在まで「40歳」「40代」が身体的な問題から“老い”のはじまりと捉えられており、この年代の意味をあらためて考える重要性、“老い”を考える際に「迷惑をかけたくない」という意識が日本において過去から現在にまで共通して見られ、この意識について歴史的、比較文化的に考察する必要性、の3点である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、これまで接点のなかった老年学研究と人文学研究との架橋を試み、人文学が基幹となる「老年学」研究のあり方を提示したこと、机上のみの研究にならないように、積極的にケアの現場におもむき、そこに生じている課題に根ざしながら研究を展開し、超高齢社会における老いから死に至る生き方に資する多様な「老い」の観念や意識を明らかにしたことにある。

研究成果の概要(英文)：The main results of this research are the three points: 1) In modern Japan (in the late Meiji and Taisho periods), humanities research was positioned in the overall concept of "Gerontology". 2) From the past to the present, "40 years old" and "40s" are considered to be the beginning of "old age" from physical problems, from the past to the present, and it is important to reconsider the meaning of this age. 3) In Japan, when thinking about "old age", there is a common sense that "Meiwaku wo kaketakunai". We consider this consciousness historically and comparatively culturally.

研究分野：日本思想史

キーワード：死生観 介護 看取り 思想史 老年学

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

「老年学」とは、超高齢社会の抱える諸問題の研究を行う分野である。従来の「老年学」研究は、医学・歯学・看護学・生物学などの自然科学系の分野、経済学・社会学・福祉学・心理学などの社会科学系の分野が中心に構成されてきた。さらに、人文学研究の立ち遅れも指摘されている。しかし、人文学の分野から「老い」をめぐる研究がなされてこなかったのではなく、これまでの研究では「老年学」と人文学の立場からなされる「老い」をめぐる研究との接点が形成されておらず、研究が分断されてきた。

2. 研究の目的

上記の学術的背景をもとに、本研究では、「老年学」研究と人文学の立場からなされる「老い」をめぐる研究との接点を形成し、新たな老年学を構築するための基盤を形成することを目的とした。そのために、具体的なケアの現場に根ざしながら人文学の研究を行い、その有効性を検証するようにつとめた。具体的には、日本における「老い」の観念に関する歴史的考察、現代日本のケアの現場における「老い」の観念、日本と異なる文化圏における「老い」の観念の検討を行い、多様な「老い」の捉え方を明らかにすることを目指した。

3. 研究の方法

「老い」の歴史的考察については文献学、社会史的手法により歴史史料を分析した。現代日本のケアの現場における「老い」の分析については、現象学的手法に基づいた質的研究、哲学的な理論に基づく分析を行った。また、ケアの現場の課題を広く知るために、介護施設や緩和ケア病棟などの見学を行った。

4. 研究成果

研究分担者、研究協力者が学会発表、論文を発表するとともに、2019年3月に研究成果をまとめた論文集を刊行した。全体的な主な成果としては、以下の3点が挙げられる。

近代日本における「老年学」の草創期(明治末~大正期)では、人文学の研究が「老年学」の全体構想の中に位置づけられており、さまざまな分野を総合するという意識があったこと

過去から現在まで「40歳」「40代」が身体的な問題から“老い”のはじまりと捉えられており、この年代の意味をあらためて考える重要性

“老い”を考える際に「迷惑をかけたくない」という意識が日本において過去から現在にまで共通して見られたことから、この意識について歴史的、比較文化的に考察する必要性があること

上記のほか、中国から研究者を招聘し、日本と中国の高齢化問題に関するシンポジウムを開催し、両国の伝統的な思想・文化的視点からの老い・看取り・死に関する諸問題を考察する有効性を明らかにした。また、近年、重要性が増している工学の分野からなされている先端科学技術を用いた介護機器・医療機器の開発に関する研究と人文学研究との接点を形成するためにシンポジウムを開催し、人文学研究の知見と工学の知見との統合をはかる必要性を明らかにした。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 7 件)

本村昌文、『徒然草摘議』における「老い」の観念 - 『徒然草』第7段の理解を中心として、岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要、査読無、45号、2017、pp.27 - 46

本村昌文、近代日本における「老年学」 - 寺澤巖男の「老年学」構想をめぐって、岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要、査読無、43号、2016、pp.21 - 41

加藤諭、小売業から見た近現代日本の老概念の変遷 - 百貨店を通じて、日本学研究、査読有、26号、2016、pp.211 - 227

出村和彦、アウグスティヌスにおける「貧困」「病」そして「老齢」、パトリティカ - 教父研究、査読無、20号、2016、pp.19 - 23

島田雄一郎、富士川游の医療論における「宗教」の意義、日本思想史学、査読有、47号、2015、pp.179 - 196

本村昌文、林羅山の死別体験、東北大学日本思想史研究室ほか編『カミと人と死者』、岩田書院、査読無、2015、pp.146 - 165

佐々木守俊、密教絵画から彫刻へ - 曼陀羅・図像の請来と彫像化、伊東四朗責任編集『日本美術全集』、小学館、査読無、2014、pp.183 - 189

[学会発表](計 18 件)

本村昌文、迷惑をかけない死とは何か - 老いと死をめぐる人文学研究の立場から、第27回

総会・第 64 回集会・緩和医療研究会、2019
諸岡了介、ケアと「迷惑」、成果公開シンポジウム「ケアの現場と人文学研究との協働による新たな 老年学 の構築」、2017
吉葉恭行、現代日本における「古い」と科学技術政策、成果公開シンポジウム「ケアの現場と人文学研究との協働による新たな 老年学 の構築」、2018
加藤諭、近現代日本の医学教育と献体、成果公開シンポジウム「ケアの現場と人文学研究との協働による新たな 老年学 の構築」、2017
工藤洋子、訪問看護師と老人看護師の老いに対する価値観、成果公開シンポジウム「ケアの現場と人文学研究との協働による新たな 老年学 の構築」、2017
本村昌文、長生きはめでたいことなのか？ - 『徒然草』注釈からみる 17 世紀における「古い」の観念、成果公開シンポジウム「ケアの現場と人文学研究との協働による新たな 老年学 の構築」、2017
本村昌文、江戸期における古い・死・死後 - 『徒然草』第 7 段を中心に、明治大学人文科学研究部総合研究「現象学の異境的展開」第 4 回講演会「江戸の身体観・死生観～現象学的アプローチ～」、2017
田中菜摘、「古い」の新たな射程 - ボーヴォワールとレヴィナスの比較から、第 8 回ネオ・ジェロントロジー研究会、2017
島田雄一郎、人性論と長寿論 - 戦前における老年期研究の一端、第 7 回ネオ・ジェロントロジー研究会、2017
植村友香子、翁童というナラティブ - 『フランダーズの犬』受容から考える、第 7 回ネオ・ジェロントロジー研究会、2017
近田真美子、静養病棟で働く看護師の老年観、第 7 回ネオ・ジェロントロジー研究会、2017
大貫俊夫、中世ヨーロッパの修道院における看取り(2) - ハイスターバッハのカエサリウス『奇跡についての対話』を手掛かりに、第 6 回ネオ・ジェロントロジー研究会、2016
小泉礼子、平安貴族における「古い」の観念について、第 6 回ネオ・ジェロントロジー研究会、2016
佐々木守俊、『高野山往生伝』にみる弥勒信仰と造像、第 5 回ネオ・ジェロントロジー研究会、2016
吉葉恭行、介護技術をめぐる日本の科学技術政策について、日本科学史学会第 63 回年会、2016
本村昌文、日本における「老年学」研究 - 橘寛勝の老年学研究をめぐって、日中国際シンポジウム「少子高齢化社会への人文学研究からのアプローチ」、2015
加藤諭、近代日本の百貨店の展開と消費文化 - 小売業から見た近代日本の老の概念の変遷、北京日本学研究中心設立 30 周年シンポジウム、2015
本村昌文、日本における「老年学」研究、国際シンポジウム「多文化視野の中の日本学」、2014

〔図書〕(計 2 件)

本村昌文、加藤諭、近田真美子、日笠晴香、吉葉恭行編、古い - 人文学・ケアの現場・老年学、ポラーノ出版、2019、453
本村昌文、いまを生きる江戸思想 - 十七世紀における仏教批判と死生観、ペリかん社、2016、310

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

本村昌文、ケアの現場と人文学研究との協働による新たな 老年学 の構築、地域ケアリン
グ 19-12、pp.83 - 86、2017 年

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：加藤 諭
ローマ字氏名：KATO,satoshi
所属研究機関名：東北大学
部局名：学術資源研究公開センター
職名：准教授
研究者番号（8桁）：90626300

研究分担者氏名：近田 真美子
ローマ字氏名：KONDA,mamiko
所属研究機関名：福井医療大学
部局名：保健医療学部
職名：准教授
研究者番号（8桁）：00453283

研究分担者氏名：工藤 洋子
ローマ字氏名：KUDO,yoko
所属研究機関名：東北福祉大学
部局名：健康科学部
職名：講師
研究者番号（8桁）：70438547

研究分担者氏名：佐々木 守俊
ローマ字氏名：SASAKI,moritoshi
所属研究機関名：岡山大学
部局名：社会文化科学研究科
職名：教授
研究者番号（8桁）：00713885

研究分担者氏名：出村 和彦
ローマ字氏名：DEMURA,kazuhiko
所属研究機関名：岡山大学
部局名：ヘルスシステム統合科学研究科
職名：教授
研究者番号（8桁）：30237028

研究分担者氏名：大貫 俊夫
ローマ字氏名：OHNUKI,toshio
所属研究機関名：岡山大学
部局名：社会文化科学研究科
職名：准教授
研究者番号（8桁）：30708095

研究分担者氏名：吉葉 恭行
ローマ字氏名：YOSHIBA,yasuyuki
所属研究機関名：岡山大学
部局名：ヘルスシステム統合科学研究科
職名：教授
研究者番号（8桁）：50436177

(2)研究協力者

研究協力者氏名：諸岡 了介
ローマ字氏名：MOROOKA,ryousuke

研究協力者氏名：日笠 晴香
ローマ字氏名：HIKASA,haruka

研究協力者氏名：島田 雄一郎
ローマ字氏名：SHIMADA,yuichiro

研究協力者氏名：田中 菜摘
ローマ字氏名：TANAKA,natsumi

研究協力者氏名：小泉 礼子
ローマ字氏名：KOIZUMI,reiko

研究協力者氏名：植村 友香子
ローマ字氏名：UEMURA,yukako

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。